

稲刈り後の溝切りは順調に進んでいますか？ 早期排水対策の徹底を！

1. 排水対策で収量・品質UP！

麦作にとって、排水対策は最も重要な技術です。播種時の土壤水分を低くすることで、①播種・出芽の精度向上、②除草剤の効果安定、③麦の生育改善や収量・品質の向上といった効果が期待できます。

2. 溝切りをいち早く行い、水田を乾かしましょう！

稲刈りが終わったほ場から、順次溝切りを行いましょ。播種時期を見据え、10月上旬までを目途に作業を行います。

ただし、ほ場表面の滞水が目立つ場合、無理に機械作業を行うとほ場が荒れるため、まずは中干し溝等を利用して表面滞水の解消を促しましょ。

本年は秋雨前線等の降雨により、水稻の収穫がやや遅れています。この遅れに左右されないよう、排水対策のタイミングを逃さず、スムーズに播種が行えるようにほ場準備を進めます。

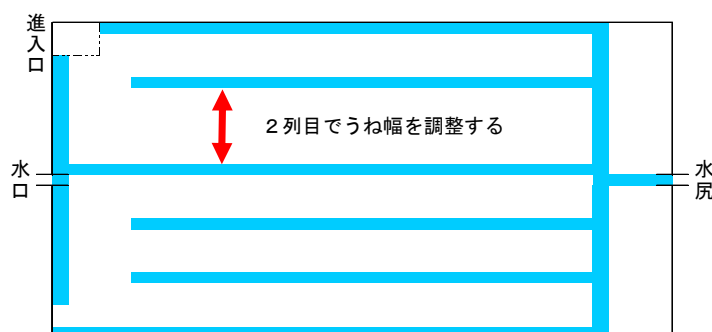


オーガ式溝堀機等で
しっかりした排水溝を作る

3. 排水溝(明きょ)は水尻まで流れるように！

①溝のつなぎ目は連結する②水尻に向かって深くする等で、水尻までスムーズに排水するようにしましょ。

一般的な優良施工事例



排水溝は尻水戸にしっかりつなぐ！
(溝の深さは15cm以上)